

令和 4 年 第 24 回

沼津市新成人議定会會議録

令和 4 年 1 月 9 日 開会

令和 4 年 1 月 9 日 閉会

沼 津 市
沼津市教育委員会

令和4年(第24回) 沼津市新成人議会 議員名簿

番号	校区	氏名	ふりがな	質問内容
1	第一	関 啓希	せき ひろき	
2	第二	和田 大輝	わだ だいき	
3	第三	武井 和佐	たけい かずさ	
4	第四	北條 玖弥	ほうじょう ひさや	議長
5	第五	帆足 遥	ほあし はるか	
6	門池	長池 一樹	ながいけ いつき	
7	金岡	熊倉 奏	くまくら かなで	
8	大岡	青木 南都	あおき なつ	
9	愛鷹	川口 裕人	かわぐち ゆうと	
10	片浜	田中 敦基	たなか あつき	
11	今沢	山田 幸	やまだ さち	
12	静浦	笹原 遥奈	ささはら はるな	
13	長井崎	伊藤 孝太	いとう こうた	本市南部地域の人口減少対策について
14	原	平柳 航希	ひらやなぎ こうき	
15	浮島	栗田 篤志	くりた あつし	
16	戸田	山本 海成	やまもと かいせい	
17	市立	高橋 洸汰	たかはし こうた	地域資源の価値の再認識について
18	暁秀	高野 怜央	たかの れお	学校教育におけるキャリア教育の推進について

新成人の一言 テーマ：ぬまづの誇りとわたしの志

令和4年(第24回) 沼津市新成人議会 議場出席者名簿

	職名	氏名
1	市長	頼重 秀一
2	副市長	硯谷 明正
3	教育長	奥村 篤
4	企画部長	杉山 康
5	財務部長	岩瀬 宗一
6	市民福祉部長	後藤 鉄也
7	産業振興部長	湯川 真由美
8	生活環境部長	加藤 忠彦
9	都市計画部長	真野 正実
10	沼津駅周辺整備部長	平野 明文
11	建設部長	村上 浩昭
12	水道部長	原 恵子
13	市立病院事務局長	土屋 剛彦
14	監査委員事務局長	原 靖
15	教育次長	山本 貴史
16	危機管理監	芹澤 一男
17	税務長	遠藤 昭男
18	福祉事務所長	土屋 仁志

令和4年（第24回）沼津市新成人議会 会期日程

日数	月 日	曜日	開議時刻	区 分	内 容
1	1月9日	日	14時	本会議	開会、会期の決定、一般質問 新成人の一言、閉会

令和4年（第24回）沼津市新成人議会 議事日程（第1日）

令和4年1月9日（日曜日） 14時 開 会

第1 会 期 の 決 定

第2 一 般 質 問

第3 新 成 人 の 一 言

令和4年（第24回）沼津市新成人議会 質問通告一覧

令和4年1月9日

順番	氏名	要旨	答弁者
1	13番 いとう こうた 伊藤 孝太	1 本市南部地域の人口減少対策について	市長
2	18番 たかの れお 高野 怜央	1 学校教育におけるキャリア教育の推進について	教育長
3	17番 たかはし こうた 高橋 洸汰	1 地域資源の価値の再認識について	市長

令和4年（第24回）沼津市新成人議会会議録

令和4年1月9日（日曜日）午後2時 開会
於 議 場

○会議

○議長（北條玖弥）

ただいまから、令和4年第24回、沼津市新成人議会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

この際、諸般の報告をいたします。

当局から、自己紹介を求められておりますので、新成人への自己紹介を許可いたします。

○当局

当局出席者が、各自、自己紹介

○議長（北條玖弥）

以上で諸般の報告を終わります。

○議長（北條玖弥）

本日の議事日程は、お手元に配付してございますので、ご了承願います。

○議長（北條玖弥）

日程に入ります。

日程第1、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。

本新成人議会の会期は、お手元に配付してございます日程表のとおり、本日一日限りとした
いと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

ご異議なしと認めます。

よって、本新成人議会の会期は、本日一日限りと決定いたしました。

○議長（北條玖弥）

次に、日程第2、一般質問を行います。発言の通告がありますので、順次発言を許します。

○議長（北條玖弥）

13番 伊藤孝太議員。

○13番 伊藤孝太議員

沼津市南部地域の人口減少対策について質問します。

令和3年4月から、沼津市立長井崎小中一貫学校が開校し、西浦小学校と私の通っていた内浦小学校が閉校しました。学校生活を通して多くの知識や経験を積んだことや、友達と過ごした楽しい日々が思い出され、大変寂しく感じています。しかし、地区の子供たちの減少傾向を踏まえた後輩たちの今後のことを考えると、致し方ないことであると思っています。このまま人口減少が進むと、学校だけでなく、経済や産業の縮小など、社会にも影響がもっと大きくなります。

そんな中でも、変わらずにあるのは、美しい自然や歴史・文化です。私が住む内浦には、美しい海岸線、淡島、長浜城など、誇りを持てるような魅力がたくさんあり、オンリーワンのまちであると思います。

そこで質問いたします。自分らしいライフスタイルを実現できるまちであり続けるために、特に、内浦を含めた沼津市の南部地域の人口減少に対して、どのような対策を考え、まちづくりを進めていくのかお答えください。

○市長（頼重秀一）

本市南部地域の人口減少対策についてお答えします。

本市の南部地域は、海越しの富士山、リアス海岸、淡島、長浜城跡、旧三津坂隧道、大瀬崎、大瀬まつり・内浦漁港祭、御浜岬、金冠山、松城家住宅など、自然や景観、歴史・文化、更には、みかんや豊富な魚介といった農水産物など、多様な地域資源に恵まれています。

このような地域資源を最大限に活用しながら、サイクルツーリズムをはじめとする観光交流の促進、西浦みかん寿太郎を活用したワインやジュースといった地域ブランドの創出など、地域の活性化に努めるとともに、地区センターを拠点とした地域コミュニティ活動の維持、津波対策など安全・安心の確保に資する施策等により、住みやすさを実感できるまちづくりを進めているところで

す。また、安心して子供を産み育てられるよう、新婚世帯の新生活に係る補助制度の運用、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援を行うワンストップ相談窓口の運営のほか、保育所及び放課後児童クラブの待機児童の解消など、子育てしやすい環境づくりを進めています。

さらに、移住を希望する方へのオンライン移住相談や、民間事業者と連携した空き家情報の提供など、移住者を受け入れるための支援体制の充実を図っています。

また、昨年9月に日本経済新聞社が公表した調査によると、本市のテレワーク環境は東海4県で1位、全国でも5位と評価されました。このように高評価をいただいたテレワーク環境を活かし、本年度からテレワークを目的に市内に移住する方への補助制度を始めるなど、時流に応じた移住支援にも力を入れています。

このほかにも、地域外の人材が地域の振興や協力活動を行う「地域おこし協力隊」として、三浦地区及び戸田地区において、現在、3名の隊員が観光振興などに係る活動を行っており、地域に定住する隊員OBの方とともに地域の活性化に寄与していただいているところです。

以上申し上げましたとおり、本市南部地域の人口減少対策として、本市では様々な施策を実施していますが、本地域にお住まいの皆様ご自身が地域の魅力を市内外に発信されることも重要であると考えています。

このため、伊藤議員におかれましても、ご自身がお住まいの南部地域の自然や歴史・文化をはじめとした様々な魅力を、友人や知人に広く発信いただければと思いますので、よろしくお願ひします。

○議長（北條玖弥）

18番 高野怜央議員。

○18番 高野怜央議員

学校教育におけるキャリア教育の推進について質問いたします。

私の出身学校では、カリキュラムの一環として学校内外での様々な課外活動への参加が推進されてきました。

学校ではキャリア教育の一環として、社会人講師からプレゼンテーションスキルなどを学んだり、学校の代表としてディベート大会に参加したりしました。また、中学1年生の時にはアメリカのアイオワ州にある学校に短期留学しました。

これらの経験は、自分の将来像を考える上で貴重な経験であったと実感しています。

将来の目標を定め、その目標に到達するために最適なアクションを起こすためには、学校の授業を受けるだけでなく、課外活動や地域活動など様々な体験や経験を積むことが大切だと考えています。生徒が主体となって取り組む行事や、地域で活躍される方などと能動的に関わる活動機会が増えれば、よりキャリア教育として有意義であると思います。

そこで質問いたします。令和3年3月に策定された沼津市教育基本構想では、「社会と関わる力の育成」の中に「キャリア教育の推進」があげられています。このことについて沼津市が力を入れている取り組みや、今後、実施を検討している取り組みがありましたらお聞かせください。

○教育長（奥村篤）

学校教育におけるキャリア教育の推進についてお答えします。

本市学校教育においては、「誇り高い沼津を創造する 貴き志を持つ人づくり」を目指していません。

子供たちが、変化の速い先の見通しが困難と言われている未来社会において、社会人・職業人として自立していくためには、自己管理能力をはじめ、多様な価値観を持つ様々な人たちと関わるコミュニケーション能力や、答えが見えない課題を協力して解決していこうとする力などの汎用的能力を育てていく必要があります。高野議員が指摘されているように、小中学校時代における様々な体験や経験は、その後の人生に大きな影響を与えるものです。

そこで、キャリア教育においては、「沼津大志学習」の中での「生きる力」を育むとともに、ひと・もの・こととのかかわりを通して社会性を伸ばし、大志を抱いて自己実現を図る学びや、総合的な学習の時間の中での進路探究に取り組むこととしています。

例えば静浦小中一貫学校では、海をテーマにした総合的な学習である「静浦学習」に取り組んでいます。漁業協同組合や地元企業等の協力を得ながら、職場体験をはじめとする地域に根差したキャリア教育を行っており、児童生徒の地域を愛する心の醸成にもつながっています。

また大岡小学校では、「世界とつながる～発信しよう、私たちのふるさとを～」の授業の中で、市内の日本語学校に通う外国の方との交流会や中国岳陽市の小学校とのオンライン交流会等を行っています。海外の文化や伝統、生活習慣の違いなどを知ったり、国際社会の中でどのような関わり方が大切になるのかを考えたりすることを目指しています。

さらに大岡中学校では、探究プログラム「シズクリプロジェクト」に参加し、連携していただいている企業の特徴を探究することで、生徒自らが職業人として社会に参画していく未来を考えるきっかけづくりとなるような取組を行っています。

昨年来、コロナ禍での様々な制約がありますが、各学校ではそれぞれの地域の実情や特徴を活かしたキャリア教育に鋭意取り組んでいるところです。

今後は、「コミュニティ・スクール」をはじめとした、本市が進める「地域総がかりの教育」の取組を活かしながら、より多くの地域の方々や企業等に協力をいただき、更なるキャリア教育の推進に取り組んでまいります。

○議長（北條玖弥）

17 番 高橋洸汰議員。

○17 番 高橋洸汰議員

沼津市の地域資源の価値の再認識について質問させていただきます。

昨今、世の中では新型コロナウイルスが流行し、ライフスタイルが変化しました。制限された日常生活の中で、「コロナが終息したら旅行に行きたい」「遊びに行きたい」というような言葉をよく耳にします。旅行や外出先は市外の観光地等のイメージが強いですが、市内でも楽しめたり息抜きをしたりすることが出来る施設があると思います。

例えば、愛鷹にはテレビ等で紹介されている球体テントの宿泊施設があります。又、東京オリンピック以降のスポーツの発展を踏まえて、旧静浦東小学校に作られた自転車やスケートボードが出来る施設等があります。

このような魅力的な施設があるのにも関わらず、市民の利用が少なく感じ、一部の方しか知らないという可能性もあるのではないのでしょうか。観光業として、外部から沼津市に訪れてくれる人を増やすという考えがある一方で、沼津市民が市内の施設を利用することも大切だと考えます。実際に市民が利用し、その魅力を感じ、伝えることもできるのではないのでしょうか。新型コロナウイルスの影響もあることから、外部からの観光客だけでなく、後者の考え方に重きを置くこともできると思います。

恵まれた地域資源を活用して、市民の沼津への愛着を育むために、どのような政策を考えているのかをお聞かせください。

○市長（頼重秀一）

地域資源の価値の再認識についてお答えします。

本市は、沼津御用邸記念公園をはじめとする歴史・文化、海・山・川の豊かな自然、沼津港などの観光資源を有しております。

本市では、こうした魅力の中から「ぬまづの宝 100 選」を選定し、個々の宝について、広報紙で継続的に紹介するとともに、現地に足を運んでいただきやすくするために、冊子の作成やホームページへの案内マップの掲載、ナビ機能の導入などを進めてきました。

一方、「ぬまづの宝 100 選」は選定から 10 年以上が経過しており、現在では、注目を集める深海魚やアニメ「ラブライブ！サンシャイン！！」の聖地となるなど、新たな地域資源も生まれています。

また、東京 2020 オリンピックを契機として取り組んでいる「サイクリストフレンドリーエリア創造プロジェクト」による多くのサイクリストの誘客や、同大会で金メダルを獲得した男子エペチームをはじめとするフェンシング代表合宿の誘致など、スポーツのフィールドとしても、本市のポテンシャルを発揮しています。

さらに、本日から放送が予定されているNHK大河ドラマでは、県東部地域が主な舞台となり、本市西部地域は、このドラマに登場する阿野全成ゆかりの地であることから、今後、この地域が市内外からより注目されるものと期待しているところです。

これらの新たな魅力を踏まえ、令和 5 年の市制施行 100 周年に向けて、100 選の見直しを予定しており、市民の皆様のご意見を伺いながら、さらに愛着の持てる宝を選定していきたいと考えています。

また、大瀬まつり、狩野川花火大会等のイベントやかつての沼津駅前、仲見世商店街等の写真、シティプロモーション動画、ドローンによる狩野川や海岸線等の空撮動画を「フォト&ムービーライブラリー」として市ホームページに掲載しています。本ライブラリーに掲載されている写真や動

画は、どなたでも無料で活用できるため、市民の皆様からは、沼津の魅力を再認識できる素材集として大変好評をいただいています。

こうしたコンテンツを、広報紙や市ホームページに加え、フェイスブック、ツイッター、インスタグラム、ライン、ユーチューブなど、拡散性や即時性に優れたSNSを活用して発信することで、様々な年代の方々に本市の魅力をお届けします。

私自身も、仕事の一つとしてこのことに取り組んでいるところです。

今後も、市民の皆様には、わがまち・沼津への愛着を深めていただけるよう、これらの取組をより積極的に進めていきます。

○議長（北條玖弥）

以上で一般質問は終了いたしました。

○議長（北條玖弥）

次に、日程第3、新成人の一言を行います。

新成人の一言、「ぬまづの誇りとわたしの志」について、質問者以外の議員から、発言をお願いします。

このテーマは、新たに大人の一員となった私たちが、郷土である沼津の誇りと、自分自身がこれからどのように行動し、成長していきたいかという志について、各議員に発言していただきます。

では、1番議員から順番に発言をお願いします。

○1番 関啓希議員

1番議員の関啓希です。私は、小学校を卒業してから、他県へ進学しました。それから中高6年間は、寮へ入り暮らしていました。この生活の中で親という存在にいかに助けられてきたのかということに気づきました。クラブでヘトヘトになったとき、美味しい食事で自分を癒してくれた母、出来ないことに出来るまで付き合ってくれた父、そして、豊かな大地で自分を育ててくれた沼津。両親だけではなく、12年間自分を見守り励ましてくれた沼津も、私は親なのだと思います。

今年を皮切りに私たちは成人します。これからは今までお世話になった親に感謝を伝え、恩返しをしていきたいと思っています。

○2番 和田大輝議員

2番議員の和田大輝です。私はこの20年間、沼津の地で育ってまいりました。沼津は海も山も近くにあり、交通の便にも優れています。何より他県の方はよく海を見に来られますので、そこを誇りに思います。

私が志していることは、人の気持ちをわかることができるような、他人を思いやれるようなそんな人間になりたいという志です。

○6番 長池一樹議員

6番議員の長池一樹です。私にとって沼津の誇りは、住環境の良い所だと考えております。日常生活をする中で、コンビニや飲食店などの店舗が充実しており、車も詰まることが少なく、住宅街は閑静で落ち着いているのではないかと考えております。

自然環境は山や海に囲まれていることもあり、身近に自然に触れることができ、公園などの施設も充実していると思います。高校生以下の医療費が無料であり、子育ての面で手厚い部分があり、どんな世代であっても過ごしやすいところが誇りであると考えております。

そんな町で過ごしてきて、今まで得た多くの経験を生かして、未熟ではありますが一人の立派な大人になれるよう、様々なことに挑戦していきたいと考えております。

○5番 帆足遥議員

5番議員の帆足遥です。私は今、大学に進学して東京で一人暮らしをしています。こうして沼津という地から離れて暮らしてみても、今まで気が付かなかった沼津の魅力にも気付くことができました。私が思う沼津の一番いいところ、誇れるところは、ありきたりではありますが、沼津の自然環境です。

沼津は日本一深い駿河湾に面しており、日本一の山である富士山をいつでも見られるところにあります。雄大な自然が手に届くところにある当たり前の環境はとても贅沢なもので、本当にかげがえのないものだと、東京に出てみて実感しております。

私は現在、農学部の獣医学専修に進んで、獣医師を目指して勉強しております。動物、自然が好きという単純な動機でこの学部を選んだのでありますが、段々と学んでいくうちに、人も動物も大きな自然の中の一部であり、よりそれらについて深く学んでみたいという気持ちが増しております。

将来は獣医学を通して、動物の保護や動物を含む地球環境の保護全体にも目を向けて、自分に来ることを探していきたいと思っております。

○12番 笹原遥奈議員

12番議員の笹原遥奈です。私が思う沼津の誇りは豊かな自然です。私の住んでいる静浦地区は海と山に囲まれ、海では旬の魚、山では沼津アルプスの四季など、食の恵み心の癒しを感じられるところです。

豊かな自然の中で、私の一番好きな場所は、地元の志下海岸です。空の青さにひと際目立つ富士山を見ながら、何度となく勇気や元気をもらいました。このかけがえのない自然が失われないように、私たちの世代が守っていかなくてはならないと感じております。

沼津で成人を迎えられたことに感謝し、今後はより地元に貢献できるような大人になりたいと思

います。

○7番 熊倉奏議員

7番議員の熊倉奏です。私が考える沼津の誇りは駿河湾だと思います。私は高校時代、駿河湾の潮風を浴びながら生活していました。潮風で自転車が錆びてしまいチェーンを交換することや、部活での千本浜ダッシュは、沼津の海を体で素晴らしいと感じることができ、沼津の誇りを実感することができる日々でした。

また、沼津港には鮪をはじめ、鮪や鰹など多くの魚が水揚げされています。大学の長期休みに沼津に帰省した際、魚の美味しさに驚きます。富士山の雪解け水が湧き水となって、流れ込んでいる駿河湾で捕れる魚は、沼津の誇りだといえます。

私の志は、物事を多角的に捉え理解できる人間になることです。駿河湾の例では、富士山の雪解け水が目に見えないところから湧き出ていることが大きく関係しています。このように見えないところに原因があることを、一つの目線だけではなく異なる角度で追及できる人間になりたいです。

○8番 青木南都議員

8番議員の青木南都です。私は今、大学生で親元を離れ大阪で一人暮らしをしています。生まれ育った沼津を出て、慣れない大阪での暮らしを始めて今年で2年が経ちます。文化も価値観も人間性も異なる多くの人々に出会っていろいろなものの考え方を理解するとともに、改めてふるさとへの愛情や誇りを感じています。

電車の路線の本数も決して多くはないけれど、景色がとてもきれいで、魚も野菜も美味しいものがたくさんあります。突っ込みの切れがいいわけではないけれど、落ちの無い私の話にもみんながたくさん笑ってくれます。雪が降らなくて、気候も人も本当に暖かさでいっぱいです。私は帰省するたびに、自分がいかに恵まれた環境で育ってきたかということを実感します。

私には誇るべきふるさとがあり、帰る場所があります。沼津への感謝の気持ちを忘れずに、恩返しができるような立派な人間になって、また沼津に帰ってこようと思っています。

○9番 川口裕人議員

9番議員の川口裕人です。私が考えるぬまづの誇りとは、地域の人々の温かさだと考えております。まだ幼いころ、地区センターで毎日、地元のおじいちゃん、おばあちゃんの童話の本の読み聞かせの会があり、毎日ワクワクしながら楽しみに通っていたものです。その時「桃太郎が仲の悪い犬と猿と一緒に連れて行って大丈夫？」と聞いたら「一緒に雉がいるから大丈夫だよ。雉は日本の国鳥だから。雉がいれば犬も猿も日本のために一緒にがんばるのさ」と答えてくれて、「ふ～ん、そうなんだ。」と納得するとともに、日本の国鳥が雉であることを知りました。今振り返ってみて、なにかほのぼのとした気持ちになるものです。

また、毎朝、片浜駅から電車で大学へ通う際、近隣の方が、駐輪場やエレベータ周りの掃除をし

てくださっています。おかげさまで、毎日気持ちよく出かけることができます。

私たちはこうして地域の人たちに育てられ、支えられて成長してきました。成人するにあたり、今後は自分もこのように地域の人たちと触れ合い、ゆくゆくは地域に貢献し、恩返ししていけるよう、学生として勉学に励んでまいりたいと考えます。

○16番 山本海成議員

16番議員の山本海成です。私にとってぬまづの誇りとは、豊かな自然に囲まれているところです。特に私が育った戸田地区は海と山に囲まれており、海水浴場や戸田から見える海越しの富士山を見にたくさんのお客が来ます。また、戸田のタカアシガニをはじめとする深海魚を楽しみに来るお客も多くおり、賑わいを見せています。

昨今、南海トラフ地震が起きる可能性が高いと警鐘されています。私は消防士を目指して大学で危機管理を勉強しており、少しでも減災、防災に役立てる人物になりたいと思います。

○15番 栗田篤志

15番議員の栗田篤志です。私が生まれ育った沼津市という町は、南を見れば駿河湾があり、北を見れば富士山があるという自然が豊かで、人々の人柄も良く、とても穏やかに生活することのできる町だと思います。

私は大学進学をきっかけに県外で暮らし始め、南を見れば駿河湾、北を見れば富士山という当たり前だった自然環境が当たり前ではないということに驚くとともに、改めて沼津の自然環境の良さを認識しました。

これから、生まれ育ったふるさとして沼津市に貢献していくことで、今まで私を支えてくれた家族や恩師、苦楽を共にした仲間たちに、少しでも恩返しをしていけたらいいと思います。

○14番 平柳航希議員

14番議員の平柳航希です。私は北海道の大学に通っています。北海道の冬はほとんど毎日が雪で、気温も寒く水道管が寒さで凍結します。沼津は雪も降らず気温も暖かいのでとても過ごしやすいと感じています。今まで当たり前すぎて気が付かなかったのですが、綺麗な富士山を毎日見ることができるのは、すごいことだと思っています。

私は将来、中学校の先生を目指しています。その時に沼津で働けたらと思っています。

○3番 武井和佐議員

3番議員の武井和佐です。私の思う沼津の誇りは、沼津市民の温かさです。私は大学進学に伴って一昨年上京しました。そして、帰省すると、沼津市民の持つ温かな雰囲気、首都圏の雑踏から解放され、沼津に生まれ育ってよかったと、地元を離れたからこそ沼津の良さを実感します。

また、沼津といえば恵まれた自然環境が挙げられると思います。令和3年度に沼津市が行った市

民意調査によると、ほとんどの人が沼津市の自然環境を守っていききたいと思っており、沼津市の良さを大切にしようとするそんな市民性をとても誇りに思います。

これから私は、沼津市出身として社会に出ていきますが、この地で育っていくのと同時に培われた人としての温かさを大事にしながら、この先出会う人にも沼津の魅力を広めていきたいと思いません。

○10番 田中敦基議員

10番議員の田中敦基です。私は小学生から今までサッカーをしてきました。その中で私が思う沼津の誇りは、サッカーJリーグのクラブチーム「アスクラロ沼津」です。自分の育った町にJリーグのチームがあるということは、とても誇りに思っています。現在はJ3リーグというカテゴリで戦っていますが、いつしかJ1リーグという日本最高峰のリーグでサッカー王国静岡の1チームとして活躍してほしいです。そのためにはスタジアムやその周辺の環境の整備が必要になってくると思います。

現在、東京の大学に在学していますが、その活動に自分も携われるように、これからたくさん勉強し、胸を張って社会人として、この「アスクラロ沼津」に少しでも貢献できるように頑張っていきたいと思いません。

○11番 山田幸議員

11番議員の山田幸です。私にとっての沼津の誇りはスポーツが盛んであるということです。私は小学生の頃から大学までバスケットボールを続けてきました。ここまでスポーツを続けてこられたのは、小学校の頃はクラブチーム、中学校は部活動と見守ってくれる大人がいて、スポーツができる場所があったからです。子供たちがスポーツを楽しめる環境が整っていることこそが沼津の魅力だと思います。

沼津市は生涯スポーツの振興にも力を入れているので、私自身も力になって沼津市に恩返しをしたいと思いません。

○議長（北條玖弥）

最後に、議長の私、北條玖弥から一言発言します。私が思うぬまづの誇りとわたしの志ですが、私のふるさとである沼津のことを思えば思うほど、たくさんの誇りである宝物が思い浮かび、一つに絞ることはできません。

いままでの皆さんのご意見をお聞きし、その思いはますます募りました。そうした思いの中で、私にとってのぬまづの誇りと志について発言させていただくとしたら、いつでも温かく迎え、帰ることができる安らぎの場、つまりふるさと沼津に対して恩返しをしていくということです。

私は今、東京で暮らしています。今回のように、沼津に帰ってくると必ず空を見上げます。こんなにも空が青くて大きかったのか、こんなにも夜空が星がきらびやかなのかと、駅を降りただ

けで、高い空を見上げただけで、狩野川沿いの遊歩道を歩いただけで、なんだか心が穏やかになる自分があります。家族と登った香貫山、姉と遊んだ公園、毎日自転車を漕いで通学した学園通り、部活帰りに寄ったフードショップ。あの時、あの場所での出来事が走馬灯のように頭を巡ります。友達と話した内容や、あの時真剣に議論したことも、あの時流れていた曲までも脳裏をよぎります。その全てが、私にとってぬまづの誇りであり、幼少期から成人までの期間、私を形づくったふるさと沼津に対して、還元、貢献していくことが私の志であります。そんないつでも原点に戻れる場所である沼津の魅力を発信していくことが、これからの私たちの世代の役目だと思います。

私は現在、大学で経済学を学んでいます。蓄えた経験と知識を生かし、いずれ、この沼津市へ還元、貢献していくことが、私にとっての沼津への恩返しにもなるからです。

○議長（北條玖弥）

本日は、議長という大役を仰せつかり、大変恐縮していましたが、滞りない議会運営に皆様御協力いただき、誠に感謝しております。

以上で、新成人の一言は終了いたしました。

○議長（北條玖弥）

以上で、本新成人議会の日程は終了いたしました。

○議長（北條玖弥）

ここで市長から発言を求められておりますので、許可いたします。

○市長（頼重秀一）

皆様、新成人議会大変お疲れ様でございました。本日1月9日午前中には、各地域の皆様方に御尽力いただき、「二十歳の集い」において新成人の皆様方をお祝いする式典が開催されたところでございます。

旧知の友人や地域での、何より御家族との貴重な歓談の時間を割いていただき、この新成人議会に御出席いただいたことに、改めて市民を代表し、そして市役所を代表し、心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

先ほど3人の新成人議員の方から御質問をいただき、本市南部地域の人口減少対策をどう行うのか、学校教育におけるキャリア教育の推進についてどのような考えなのか、さらに、地域資源の価値の再認識について、沼津市の考え方について質されたところでございます。

いずれの質問に関しましても、これまで住んでいた地域のことを認識した上で今後どうあるべきなのか、自らの学校での様々な体験を通じて沼津市の教育はこれからどうなっていくべきなのか、

地域の宝をいかに活用していくのかと、現状の沼津市における様々な課題をしっかりと直視され、将来のビジョンをしっかりと持っていき、というのを感じ、大変感動した次第であります。

また15名の新成人議員の皆様から、「ぬまづの誇りとわたしの志」について御発言いただきました。沼津市というのは極めて自然環境に恵まれた素晴らしいところであることを、私も様々な席でよく発言させていただいておりますが、北側には霊峰富士、南側には伊豆半島、西側には世界で最も美しい湾クラブに加盟している駿河湾、そして東側には世界的に有名な観光地である箱根。このように、海、山、川に恵まれた素晴らしい環境に位置し、この自然環境から産出される素晴らしい新鮮な美味しい食材。また、このような環境にあるからこそ人が育ち、人格が形成されて、素晴らしい方々が住む、そのような方々に支えられて今日まで歩んできたことを認識されて、この恵まれた自然環境、フィールドを様々な面で活用していき、スポーツにおいても活用できる、そのような意見がありました。

非常に参考になる意見がたくさんございました。我々も「ぬまづの宝100選」等を通じて、市のPRを行っており、今後もこの「宝」の活用をしっかりと行っていき、皆様からいただいた意見を参考に、自信を持ってこれから取組を行うことができると考えたところでございます。本当にありがとうございます。

私も市長になる前に、市議会議員を4期務めさせていただきました。34歳の時に立候補し、当選し、この本会議場で発言させていただいたのですが、その当時の私を思い浮かべて、皆様方のように立派に発言することができたかなということを考えていたところです。14歳も年下の二十歳の皆様が、本当にしっかり話されて感動したということと併せて、沼津市の未来は本当に明るいと感じたところでございます。

沼津市においては、令和3年3月、第五次沼津市総合計画を策定いたしました。これは、沼津市が行う様々な計画の最上位の計画で、令和3年から令和12年までの10年間の計画でございます。この中では「人・まち・自然が調和し、躍動するまち ～誇り高い沼津を目指して～」という目標を掲げているところです。

この実現のため、様々な政策を展開しております。特に街の骨格となる中心市街地における様々な都市基盤整備、中心市街地のまちづくり戦略等が、最近、大変話題になったところです。また、「ヒト中心のスマートシティ」の実現に向けた取組を進めているところでございます。

先ほどの発言の中にもありましたが、南海トラフ巨大地震の地震被害が想定されております。安全安心なまちづくりのために、災害に強いまちづくりのこともしっかりと進めさせていただきます。また、子育て世代の方をはじめ、多くの方々が自分らしく住みやすい環境作りというのものも、しっかりと進めてまいりたいと考えています。

様々な取組を行いながら、持続可能なまちづくりをこれからもしっかりと進めていく覚悟でございます。

皆様は、本日、この新成人議会に出席され、大変貴重な体験をされたと思います。このような機会を通じて、更に沼津市に対して関心を持っていただき、そして、共にこの沼津市を更に発展させ

ていく原動力になっていただきたいと思います。

沼津市が明るい未来を、輝かしいまちづくりを進めるためには、皆様方のような若いエネルギーな発想力、行動力を持っている方の存在は極めて重要でございます。沼津市に生まれ育った皆様と共に、これから未来に向かって歩いていければと思いますので、是非ともよろしくお願い申し上げます。

結びとなりますが、皆様方におかれましては、成人として様々な意味において今後ますます責任というものが発生してくると思います。その中には辛いこともあろうかと思えます。その一つひとつにしっかりと相対し、そして自分の未来を見つめながら、目標を設定し、強力に歩みを進めていただきたいと思います。

皆様方の、今後ますますの御活躍を心から御祈念申し上げ、市長としての挨拶に代えさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。

○議長（北條玖弥）

これをもって、令和4年第24回沼津市新成人議会を閉会いたします。

御苦勞様でした。

令和4年1月9日

令和4年第24回
沼津市新成人議会会議録

令和4年2月発行

編集・発行 沼 津 市
沼津市教育委員会